

上野輪王寺宮墓地の出土遺物

小 俣 悟

立会調査時に採取した遺物を紹介する(第30図・図版13)。縄文土器を1点(1)及び瓦を4点(2～5)採取している。縄文土器は口縁部小片であり、包含層から出土している。瓦は軒平瓦?・平瓦・軒棧瓦・軒丸瓦の4種あり、全て表採で、基礎掘削排土から採取している(平瓦は敷地西側、他は東奥側)。その他に瓦片をいくらか確認している。

1 深鉢形土器の口縁部片で外反気味、口唇部は肥厚し刻みを有し直下に横線を回らすが部分的か、調整は外面斜位条線・内面横条線顕著、色調は器表赤褐色で胎芯褐色気味、胎土は輝石黒色粒子多量・白色粒子やや含み緻密、焼成は堅緻である。№40 基礎掘方内暗黒色土層出土である(第29図★印)。時代は縄文時代後・晩期に属し、「安行式土器」である。

2 軒平瓦と推定され軒部右約半分、軒瓦部高さ4.2cm・平部厚さ1.4cm、瓦当文様は二重唐草文、調整は平瓦部両面ナデ?・裏面接合部窪ます・接合痕顕著、色調は器表灰黒色で一部淡褐色(摩滅?)・胎芯灰色、胎土は輝石黒色粒子やや多量・雲母少量を含みほぼ緻密、焼成はほぼ堅緻、表面ざらつく、やや欠損している。

3 軒棧瓦で軒部丸瓦部から平瓦部にかけて、瓦当文様は唐草文、軒瓦部高さ5.0cm・平部厚さ10.5cm、調整は平瓦部凹面タテナデ・裏面ナデ、色調は器表黒色で一部淡褐色(摩滅?)・胎芯灰色、胎土は輝石多量・黒色粒子は多量・小石少量を含みほぼ緻密、焼成はほぼ堅緻、表面ざらつく、やや顕著に欠損している。

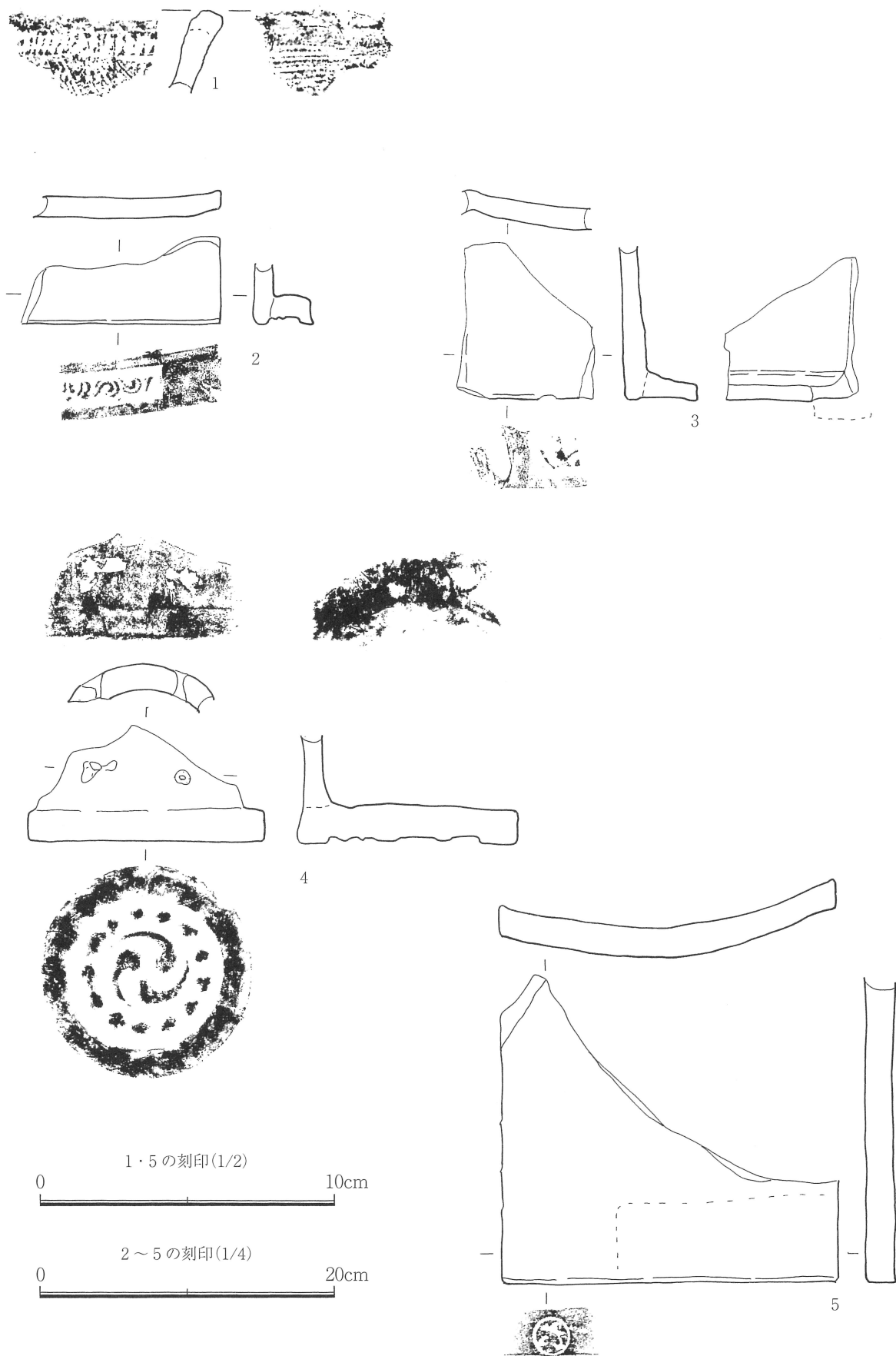
4 軒丸瓦でほぼ軒部、瓦当文様は連珠13珠・右三巴文・圏線なし、軒丸部径30.2cm、丸瓦部10.8cm、丸瓦部に釘穴2か所、調整は丸瓦部凸面ナデ・凹面ケズリ後ナデか・粘土接合痕、色調は器表黒色で銀化・胎芯灰色、胎土は輝石黒色粒子多量・黒色粒子やや多量・白色粒子やや含みほぼ緻密、焼成はほぼ堅緻、表面ややざらつく、やや剥離・欠損している。

5 平瓦で約1/3残存、端部(前か)に刻印あり○枠に「六」、厚さ2cm・幅23.2cm、調整は凹面不明瞭・凸面ケズリ後ナデ・平滑、色調は器表濃黒色で一部灰黒色(焼成ムラ?)・胎芯白色、胎土は輝石多量・雲母やや多量・白色粒子・小石やや含み緻密、焼成は堅緻、一部欠損している。

遺物の検討 軒平瓦・軒棧瓦は瓦当文様が、中心飾りが子房で左右均等な唐草文と判断される。均等唐草文は、江戸時代に江戸在地産と推定される「江戸式瓦」に通用な文様である。胎土では、輝石等粒子を含み、灰色気味で砂質な状況はやはり「江戸式瓦」に通用である。よって軒平瓦・軒棧瓦は「江戸式瓦」である。軒丸瓦も胎土等から「江戸式瓦」と推定される。

平瓦は胎土が「江戸式瓦」と相違している。改めて瓦の刻印から検討する。刻印は生産地にて印された記号であり、生産者等を示すものである。本調査地南側に所在する国立科学博物館において、近年度重なる遺跡調査を実施しており、江戸時代寛永寺境内地の遺構遺物が検出されている。多様な陶磁器の他に、多量の瓦が出土しており、刻印も多種確認される。○枠に数字もかなり見られ、○枠に一・七・九等があり、他に○枠にかな(や・ヤ等)、○枠に漢字(久・又・太・新等)などがある。○枠に数字の刻印瓦は、軒平・棧瓦の瓦当文様が、中心飾りが樹枝で左右均整唐草文に点珠を伴う。江戸時代に東海地方産と推定される「東海式瓦」と想定される瓦で、胎土は雲母を特徴的に含み、白色である。よって本資料の平瓦は、刻印・胎土等から「東海式瓦」と推測される。ちなみに「東海式瓦」は、東京国立博物館の西側に位置する国会図書館(現国際こども図書館)の調査にてまとまって出土しているが、他の調査地では多くはない。

以上簡略な検討から、図示している瓦は2～4が江戸在地産の「江戸式瓦」、5が「東海式瓦」と想定される。また時期的にも、近代には焼成がより硬質になり、瓦当文様も省略されてしまう点から、図示瓦全て江戸時代に属するものと判断されるが、2は、瓦当文様が細身の二重唐草であることや文様枠幅が広いことから、よ



第 30 図 上野輪王寺宮墓地 出土品実測図 (1/2・1/4)

り古手であり、17世紀代の可能性もある。江戸時代には、本調査地は「慈眼堂」(「両大師」)が所在し、また西隣の東京国立博物館には、東叡山主である「輪王寺宮」が居住する「本坊」が存在し、南隣の国立科学博物館には子院が設置されていた。よってこれらの資料は、「慈眼堂」関係と推定されるが、「東海式瓦」についてはあるいは南側の子院、更には「本坊」に関わるものとも推測される。

縄文土器については隣接している、東京国立博物館構内・国立科学博物館等の調査では後期の土器は出土しているが、ほぼ前・中頃であり、後期後半～晩期前半の「安行式土器」は新坂貝塚に確認されている。本資料が、自然堆積層と推定される地層より出土していることから、当地点本来のものである可能性は高いと思われる、新坂貝塚との関連性も考えられ、貴重な資料である。ちなみに台地西縁の東京都立上野高等学校構内の調査においても出土しており、現状では台地縁辺の限定された場所にて確認されている。

主要参考文献

都立学校遺跡調査会 『東叡山寛永寺護国院Ⅰ・Ⅱ』、1990年。

国立科学博物館上野地区埋蔵文化財発掘調査委員会 『上野忍岡遺跡国立科学博物館(たんけん館・屋外展示模型)地点』、1995年。

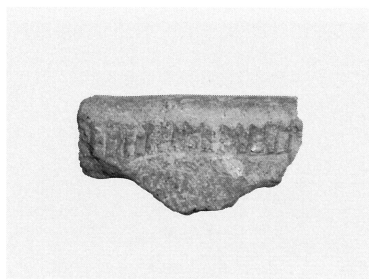
東京国立博物館構内発掘調査団 『上野忍岡遺跡群－東京国立博物館平成館(仮称)および法隆寺宝物館建設地点発掘調査報告書』、1997年。

江戸遺跡研究会 『江戸考古学研究事典』、柏書房、2001年。

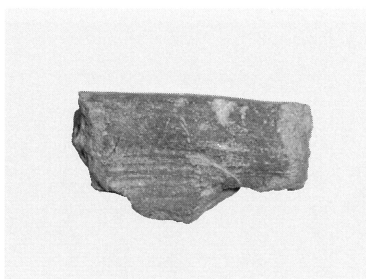
台東区文化財調査会 『上野忍岡遺跡群国立科学博物館おれんじ館地点』、2001年。

台東区文化財調査会 『上野忍岡遺跡群国立科学博物館上野地区サブセンター前庭中庭地点』、2008年。

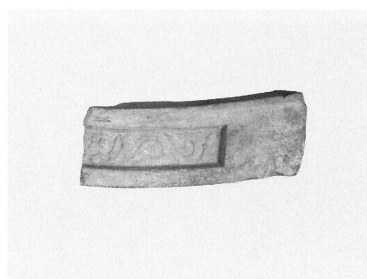
台東区教育委員会生涯学習課 『台東区の遺跡』、2008年。



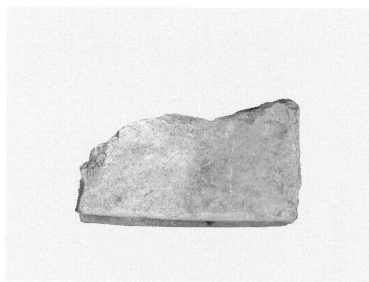
1 上野輪王寺宮墓地
出土品 縄文土器 (外面)



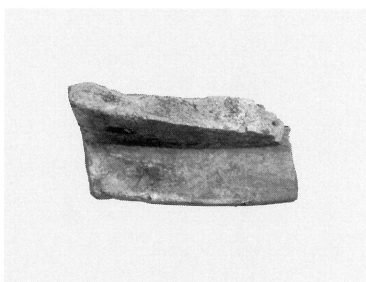
2 上野輪王寺宮墓地
出土品 縄文土器 (内面)



3 上野輪王寺宮墓地
出土品 軒平瓦 (表面)



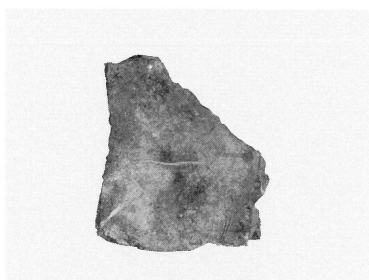
4 上野輪王寺宮墓地
出土品 軒平瓦 (凹面)



5 上野輪王寺宮墓地
出土品 軒平瓦 (裏面)



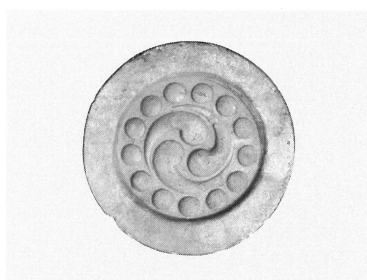
6 上野輪王寺宮墓地
出土品 軒棧瓦 (表面)



7 上野輪王寺宮墓地
出土品 軒棧瓦 (凹面)



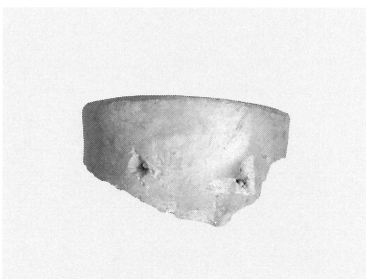
8 上野輪王寺宮墓地
出土品 軒棧瓦 (裏面)



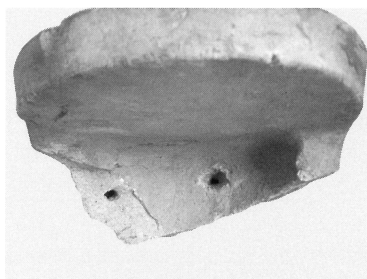
9 上野輪王寺宮墓地
出土品 軒丸瓦 (表面)



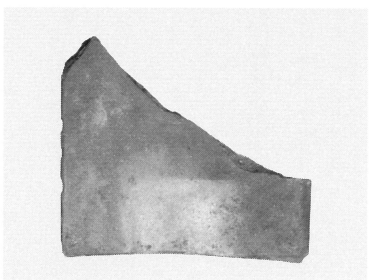
10 上野輪王寺宮墓地
出土品 軒丸瓦 (裏面)



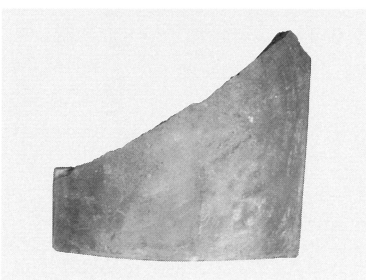
11 上野輪王寺宮墓地
出土品 軒丸瓦 (凸面)



12 上野輪王寺宮墓地
出土品 軒丸瓦 (凹面)



13 上野輪王寺宮墓地
出土品 平瓦 (凹面)



14 上野輪王寺宮墓地
出土品 平瓦 (凸面)



15 上野輪王寺宮墓地
出土品 平瓦 (刻印)